

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける			
年 度 当 初								
評価項目	評価の具体項目	現状(平成31年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価結果 (3)月	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と 誇りを持ち、自ら考え、判 断し、行動できる力をつ ける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、 規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るく笑顔で気 持のよい挨拶ができ、制服を正しく着 こなしている。	・91%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。 ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、92%が自ら進んで挨拶していると回答している (学校生活アンケート)が、日常的に挨拶できている生徒の数は減ってきた。また、 また学校外でも身だしなみを整える意識を高める必要がある。 ・96%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アン ケート) ・94%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っ ている」と回答。(学校評価アンケート) ・89%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校 生活アンケート) ・93%の生徒が安心して安全な学校生活を送っている」と回答。(学校生活アンケート) ・74.9%の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均 2.02件、一人あ たり0.68回(通院等による遅刻も含む)。 ・QUアンケートを年間2回(3年生は1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもと に、教育相談員、学年団と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応し た。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ180件であった。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持 ち、鳥商に入塾して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数 が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちの良いさわやかな 挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができている。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面にに応じた 言動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団 に貢献している生徒が90%以上。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が 90%以上。	・将来の職場での仕事や上級学校での学びにつながる鳥商で の学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支 援する。 ・社会生活を送る上で必要な日常生活における挨拶、正しい身だ しなみ、規律遵守などの指導を継続して行い、自分の姿を客観的 に見る力を養う。 ・学校内外での行動や態度により自分への信頼感を高めることが 学校全体に好影響をもたらす。地域社会からの学校全体への信 頼にもつながることを意識させる。 ・生徒一人ひとりが鳥商生としての誇りを持ち、学校の活性化に 貢献することを意識させながら行事等を実施する。 ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを引き続き実施する。 ・QUアンケートを1、2年生は年2回、3年生は年1回引き続き実 施し、その結果を含めて教育相談員と生徒情報を共有し、配慮を 要する生徒についてはケース会議等により関係者で丁寧に対応 していく。必要に応じて外部機関と連携する。	・90%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、93%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校 生活アンケート)が、相手を見てしっかりと声が出て挨拶をしている生徒は減ってきた。 また、登下校時の服装の乱れも見受けられるようになってきた。 ・86%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケー ト) ・88%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」 と回答。(学校評価アンケート) ・93%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活ア ンケート) ・90%の生徒が安心して安全な学校生活を送っている」と回答。(学校生活アンケート) ・70.1%(74.9%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均3.75件(2.02件)、 一人あたり1.17回(0.68回)(通院等による遅刻も含む)(内は昨年度)。 ・QUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、教育相談 員、スクールソーシャルワーカー、外部機関、学年団と連携しながら、配慮を要する生徒につい ては個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ450件(昨年度 180件)であった。	A	・鳥商での学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支 援する。 ・中学生とその保護者、中学校関係者に対する鳥商教育についての紹介、 説明の機会を増やす。 ・社会生活を送る上で必要な挨拶、マナー、身だしなみ、規律遵守等の指 導を継続して行う。自分の姿を客観的に見る力を養う。 ・自分への信頼感を高めることが学校全体に好影響をもたらす、自身の評 価にもつながることを意識させる。	
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった 言動ができるとともに、周囲や集団のた めに貢献する姿勢が身についている。	・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習 (10月9日から11日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第26回鳥商デパート(11 月30日・12月1日)を中心にそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施 できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接 指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生 徒代表に行なった。3年生に対して、全職員が論文指導、面接指導を実施。就職内定 率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、 自分の意見を発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3種目以上 が58人(79人)であり取得率は33.5%(41.4%)。1級未取得者は11人(6人)。()は一昨 年度。1級7種目取得者2名(3年2名)。経産省基本情報技術者試験1名(3年)合格、 経産省ITパスポート試験2名(3年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3月臨時休業明け(3月 18、19、23日)と学年末休業(3月26・27日)に1・2年生全員に商業科目と英語の補習を 実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月31日から8月2日まで)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月2日甲南大学、大阪経済大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を開催し た。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的 に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされて いる。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検 定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的 に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表 現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。 ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実 施する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を 継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環 境大学)への参加を勧める。 ・全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続 して実施する。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多きが、コロナ禍により予定変更や中止を 余儀なくされた。第27回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。就職、 進学に関する卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同 進学学習セミナー等はオンラインを併用する等実施形態を工夫して実施し、進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞 を述べた。3年生に対しての論文指導、全職員の面接指導を実施。就職内定率、進学先決定 率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する 経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3種目以上が97名 (58名)であり取得率は51.1%(33.5%)。1級未取得者は5名(11名)。1級7種目取得者1名(2 名)。商業経済検定全科目合格5名(1名)、会計実務検定全科目合格1名(なし)()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には 平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月29日から31日まで)を実施。 ・2年生対象に4年制大学見学会(12月18日公立鳥取環境大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者は、鳥取大学入学センター主催の研修会に参加した。	B	・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、令和3年度キャリア教育全体計画 に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向 上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施する。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。 ・就職希望者への社会人による面接指導を継続する。		
2. 望ましい職業観・勤労 観を身につけ、進路実現 に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通して効果的な体験活動によ って、自立・自律のための実践力や応 用力の育成が行われている。	・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習 (10月9日から11日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第26回鳥商デパート(11 月30日・12月1日)を中心にそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施 できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接 指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生 徒代表に行なった。3年生に対して、全職員が論文指導、面接指導を実施。就職内定 率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、 自分の意見を発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3種目以上 が58人(79人)であり取得率は33.5%(41.4%)。1級未取得者は11人(6人)。()は一昨 年度。1級7種目取得者2名(3年2名)。経産省基本情報技術者試験1名(3年)合格、 経産省ITパスポート試験2名(3年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3月臨時休業明け(3月 18、19、23日)と学年末休業(3月26・27日)に1・2年生全員に商業科目と英語の補習を 実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月31日から8月2日まで)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月2日甲南大学、大阪経済大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を開催し た。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的 に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされて いる。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検 定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的 に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表 現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。 ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実 施する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を 継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環 境大学)への参加を勧める。 ・全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続 して実施する。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多きが、コロナ禍により予定変更や中止を 余儀なくされた。第27回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。就職、 進学に関する卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同 進学学習セミナー等はオンラインを併用する等実施形態を工夫して実施し、進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞 を述べた。3年生に対しての論文指導、全職員の面接指導を実施。就職内定率、進学先決定 率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する 経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3種目以上が97名 (58名)であり取得率は51.1%(33.5%)。1級未取得者は5名(11名)。1級7種目取得者1名(2 名)。商業経済検定全科目合格5名(1名)、会計実務検定全科目合格1名(なし)()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には 平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月29日から31日まで)を実施。 ・2年生対象に4年制大学見学会(12月18日公立鳥取環境大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者は、鳥取大学入学センター主催の研修会に参加した。	B	・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、令和3年度キャリア教育全体計画 に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向 上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施する。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。 ・就職希望者への社会人による面接指導を継続する。		
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、 将来の社会生活、職業生活に結びつく 進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検 定試験等に積極的に取り組んでいる。	・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習 (10月9日から11日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第26回鳥商デパート(11 月30日・12月1日)を中心にそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施 できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接 指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生 徒代表に行なった。3年生に対して、全職員が論文指導、面接指導を実施。就職内定 率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、 自分の意見を発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3種目以上 が58人(79人)であり取得率は33.5%(41.4%)。1級未取得者は11人(6人)。()は一昨 年度。1級7種目取得者2名(3年2名)。経産省基本情報技術者試験1名(3年)合格、 経産省ITパスポート試験2名(3年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3月臨時休業明け(3月 18、19、23日)と学年末休業(3月26・27日)に1・2年生全員に商業科目と英語の補習を 実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月31日から8月2日まで)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月2日甲南大学、大阪経済大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を開催し た。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的 に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされて いる。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検 定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的 に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表 現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。 ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実 施する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を 継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環 境大学)への参加を勧める。 ・全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続 して実施する。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多きが、コロナ禍により予定変更や中止を 余儀なくされた。第27回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。就職、 進学に関する卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同 進学学習セミナー等はオンラインを併用する等実施形態を工夫して実施し、進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞 を述べた。3年生に対しての論文指導、全職員の面接指導を実施。就職内定率、進学先決定 率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する 経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3種目以上が97名 (58名)であり取得率は51.1%(33.5%)。1級未取得者は5名(11名)。1級7種目取得者1名(2 名)。商業経済検定全科目合格5名(1名)、会計実務検定全科目合格1名(なし)()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には 平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月29日から31日まで)を実施。 ・2年生対象に4年制大学見学会(12月18日公立鳥取環境大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者は、鳥取大学入学センター主催の研修会に参加した。	B	・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、令和3年度キャリア教育全体計画 に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向 上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施する。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。 ・就職希望者への社会人による面接指導を継続する。		
3. 健康に留意し、学力 向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的生活習慣の大切さをよく理解し、 運動・食事・睡眠に留意した規則正しい 生活を送っている。	・毎朝食摂取88%、1日の運動量2時間以上57%、平均睡眠時間6～8時間75%と、生活 リズムのよいバランスの取れた健康的な生活ができている。81%の生徒が運動・食事・睡 眠を意識した規則正しい生活を送っている。86%の生徒が生活リズムが確立され授業に 集中できていると回答(学校生活アンケート)。 ・学校内のけが、部活動による故障が多く、捻挫・挫傷・打撲が増加している。アキレス腱・ 関節や体の硬さが一要因。体のメンテナンスにかかる時間が少ないことが原因。 ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている。スマホ使用時間が長く、時間の使い方が が上手でない。自己管理、コントロールする力が必要。 ・保健だよりを発行し生徒、保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・スヶケアに関する健康教育LHRを12月に実施。 ・体育祭(9月)での商高体操と全校強歩大会(10月)を実施。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則 正しい生活を送っている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ 体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80% 以上である。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考 査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・家庭学習と授業との連動をはかり、期間を限定しながら日々 の部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場にな っており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の一部活動が 10以上となっている。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだ を休めて、リセットする方法を体感・金得させる。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識づけのための健康教育LHRを実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。 ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている。スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手で ない。自己管理、コントロールする力、良質な睡眠が必要。 ・保健だよりを発行し生徒、保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガを予防する体づくり」をテーマに、理学療 法士による柔軟性・可動性の前提となる「よい姿勢」のための健康教育LHRを9月に実施。 ・体育祭(9月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・10年間の健康教育の取り組みが評価され、全国健康づくり推進学校最優秀(日本学校保健会 主催)を受賞した。	・毎朝食摂取92%、1日ごろから運動を心掛けている生徒79%と健康的な生活を心掛けている生徒 が多い一方、46%の生徒が就寝時間が夜1時以降になることがよくあると答えており、生活のリズ ムが取れていない生徒も多い。92%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答 しているが、就寝時間が遅いことが当たり前にできていることが危機感される。(学校生活アン ケート)。 ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている。スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手で ない。自己管理、コントロールする力、良質な睡眠が必要。 ・保健だよりを発行し生徒、保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガを予防する体づくり」をテーマに、理学療 法士による柔軟性・可動性の前提となる「よい姿勢」のための健康教育LHRを9月に実施。 ・体育祭(9月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・10年間の健康教育の取り組みが評価され、全国健康づくり推進学校最優秀(日本学校保健会 主催)を受賞した。	A	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだを休め て、リセットする方法を体感・金得させる。また、「なりたい自分」への投資 時間を設けるよう働きかける。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・ケガを予防する体づくりのための健康教育LHRを継続して実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を継続して実施する。	
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学 習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続 的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年140分(113分)、2 年145分(112分)、3年129分(126分)と各学年とも一昨年同期よりは増加。()は一 昨年度。10月平常時の自宅学習時間は1年34.5分(75.1分)、2年40.6分(30.1分)、3 年24.6分(52.8分)であった。クラス間の差が大きい。 ・11月5～6日の中国五県商業教育研究大会で授業公開と研究協議・シンポジウムを 実施。 ・2月14日にエキスパート教員公開授業(商業)を実施。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的 に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされて いる。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検 定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的 に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表 現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。 ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実 施する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を 継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環 境大学)への参加を勧める。 ・全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続 して実施する。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年146分(139分)、2年180分 (143分)、3年205分(126分)と各学年とも昨年同期よりは増加。10月平常時の自宅学習時間 は1年44.9分(34.5分)、2年32.6分(40.6分)、3年44.9分(24.6分)であった。クラス間の差が大き い。()は昨年同期。 ・11月に中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業(商業)と研究協議を実施。 ・12月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。	B	・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との連動をはかり、オンラインツールを活用した学習習慣 の定着を図る。 ・オンライン参加を含めて授業力向上に役立つ研修会等への参加を奨励 する。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し授業力向上を図る。		
4. ビジネス社会及びグ ローバル社会に必要な力 を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の 着こなし、丁寧な言葉遣いができる。	・定期的な服装頭髪指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ 等指導を行った。全校集会等の場面でも注意を喚起。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会・学校関係者評価委員会を3回実施。産業界、教育界、保護者代表か ら本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・マナーアップさわやか運動をPTA協力して2回実施。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた の適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人 権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動 が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第27回鳥商デパートにおいて、 鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実 践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を愛でるよう留学生、海外か らの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機 会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・定期的な身だしなみ指導のみならず、挨拶、言葉遣いなどのマ ナー指導はビジネス教育でも行う。端正な姿を生徒自身の評価 に結びつけ、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・コミュニケーションの導入により学校運営協議会を開催し、多 様な立場の意見や提言を聴取する。 ・年度初めに集合指導を行い、生徒に速やかな全体集合を実践 させる。 ・今後の学級感を念頭におきつつふるさとキャリア教育の視点も 踏まえ、学びの実践の場としての諸行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理)等 を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・図書紹介、国語科と連携した授業などを通して読書や時事 問題への関心を高める。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校との交流の具体化に 向けた協議を進めるとともに、交流の核となる生徒の組織作りを 進める。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・全商英検1級受検、実用英語検定の準2級以上の受検を含め、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生コミュニケーション英語1での英語習熟度別授業を活用し て基礎知識の定着のための学習と発展的な学習を平行して行 う。	・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。 全校集会等の場面でも注意を喚起した。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動が取れている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言を いただいた。 ・コロナの影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。 ・第27回鳥商デパートを生徒の保護者・家族限定で開催。全学年生徒が参加した。売上 1,736,475円、来場者数9,624人であったが、客席数が昨年の2.7倍となり保護者・家族の関心の 高さがうかがえた。2月19日に成果発表会を開き協力企業、学校運営協議会委員に講評を いただいた。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ3,520冊(3,690冊)。一人あたりにすると6.5冊(6.9冊) と昨年度よりやや減少した。授業での利用時間数は444時間(345時間)と増加した。教科、分 掌と連携した読書指導を実施したが、時事問題や社会問題への興味・関心の喚起は十分とは 言えない。()は昨年同期。 ・年度初めに集合指導を行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・ふるさとキャリア教育の視点も踏まえ、1年ビジネス体験実習に替わる行 事、2年研修旅行、3年鳥商デパート運営等の学びの実践の場としての諸 行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理能力等)を高め る。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携したおすすめ本のポップ作り・新聞記事 を活用した授業等を通して読書や時事問題への関心を高める。	C	・定期的な身だしなみ指導のみならず、身だしなみ、頭髪、挨拶などのマ ナー指導はビジネス教育でも行う。指導に乘らない生徒には丁寧に説明して 見通しを持たせ、端正な姿を生徒自身の評価につながるよう、学校全体の 評価につながることを意識させる。 ・学校運営協議会を活用し、多様な立場の意見や提言を聴取する。	
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した 知識や技術を、実践力・応用力の育成に 活かすことができる。	・第26回鳥商デパートを開催。全学年生徒が参加し保護者にも協力いただいた。売り 上げ1,439,466円、来場者数9,576人と過去最高を記録した一昨年にはわずかに及ば なかったものの、お客様満足度は96.3%と一昨年も2.6ポイント上昇した。2月13日には 成果発表会を開き協力企業、学校評議員会、学校関係者評価委員の方々に参観 いただいた。講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ3,690冊。一人あたり6.9冊と一昨年度より増 加した。授業での利用時間数は345時間(一昨年度同期は312時間)となり大幅に増え た。教科、分掌と連携した読書指導を実施し、全国高校生ビブリオバトル大会に県代 表として出場するなどの成果を挙げた。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校との学校間交流が決定。 ・鳥取県バーモント州青少年交流事業に本校2年生が参加。2学期終業式で全校に報 告。 ・全商英語検定1級取得者は16名(一昨年度12名)と増加し合格率も上がった。2級、3 級の合格率は95%と一昨年度(92%)よりは上昇した。 ・1年生コミュニケーション英語1で習熟度別授業を実施。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた の適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人 権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動 が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第27回鳥商デパートにおいて、 鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実 践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を愛でるよう留学生、海外か らの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機 会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・定期的な身だしなみ指導のみならず、挨拶、言葉遣いなどのマ ナー指導はビジネス教育でも行う。端正な姿を生徒自身の評価 に結びつけ、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・コミュニケーションの導入により学校運営協議会を開催し、多 様な立場の意見や提言を聴取する。 ・年度初めに集合指導を行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・今後の学級感を念頭におきつつふるさとキャリア教育の視点も 踏まえ、学びの実践の場としての諸行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理)等 を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・図書紹介、国語科と連携した授業などを通して読書や時事 問題への関心を高める。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校との交流の具体化に 向けた協議を進めるとともに、交流の核となる生徒の組織作りを 進める。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・全商英検1級受検、実用英語検定の準2級以上の受検を含め、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生コミュニケーション英語1での英語習熟度別授業を活用し て基礎知識の定着のための学習と発展的な学習を平行して行 う。	B	・年度初めに集合指導を行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・ふるさとキャリア教育の視点も踏まえ、1年ビジネス体験実習に替わる行 事、2年研修旅行、3年鳥商デパート運営等の学びの実践の場としての諸 行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理能力等)を高め る。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携したおすすめ本のポップ作り・新聞記事 を活用した授業等を通して読書や時事問題への関心を高める。		
5. 業務改善の取組	校務分掌・任務分担の見直しを実施す る。 長時間勤務者を解消する。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得 が促進された。 ・業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に 専念できる時間が増えた。 ・ノートの校内掲示板の活用により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的 な情報共有ができた。 ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間 や勤務時間外への指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意 識が高まった。	・月当たりの時間外業務を令和元年度比で10%削減す る。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に 徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・夏季休業中に対外業務停止日を3日間設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示板の活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動 の月別計画と実績表を活用し、生徒の心技体一となった発達 のあり方の検討を進める。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得を促進した。 ・業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できる時間 が増えた。 ・校内掲示板やGoogle Classroomの活用により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報 共有ができた。 ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外 の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間 外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至って いない。	B	・業務アシスタントの配置がない場合、来年度の当該分掌の人員配置や任 務分担について配慮が必要となる。分掌内の任務分担の更なる見直しを 進める。 ・校内掲示板とGoogle Classroomの活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計 画と実績表を活用し、コロナ収束後も継続可能な時間外勤務時間の削減 と部活動の充実の両立を図る。	